

学部・研究科名 応用生物科学部
 学部長・研究科委員長名 山本祐司
 学科名・専攻名 農芸化学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	特論・演習・実験科目のほか、分野横断的な選択科目など、学士課程にふさわしい授業を実施している。	複数名の学科卒業生による講演を聴講し、学生個々の将来像を明確にし、大学での学びの意義を確認させている	各学期において、進級・卒業判定を学科教員全員で情報共有している。学年担任や研究室教員により、該当学生への指導を実施している。	各研究室内での卒論発表会、および学科全体での代表発表会を通じて、学位授与方針を満たしているかどうかの判断に大きな差が生じないようにしている。	評価アンケートの結果や各研究室の現状を教員間で共有し、会議の場で議論するとともに、継続的な改善に努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。
根拠資料名	大学 HP に掲載	大学 HP	大学 HP（シラバス）	大学ポータル内の成績データ	大学からの（評価アンケートなどの）データ

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学生募集及び入学者選抜の制度や体制については、各々の日程に連動して、適宜、学科会議を開催し、学科教員内での情報共有と課題の抽出を行い、改善策を講じている。入学者選抜については、入学センターからの提案を元に、学科教員間で協議し、公正に実施している。	在校生の成績や就学状況を入試制度毎に追跡調査し、学科教員内で情報共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する
根拠資料名	大学 HP（募集要項など）、大学からのデータ	大学からのデータ（入試関連データ）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学の方針に則り、学科の教員組織の編成に関する方針を明示し、意見交換を行っている。	各研究室に必要な人数の教員が在籍し、各教員の専門分野も学科の専門性に沿っている。 採用時の面接で教育や研究に関する適正を測っている。	学科教授会を随時開催し、学科教員の募集、採用、昇任の方針について情報共有と意見調整を行っている。	複数教員を配置した研究室及び学科会議において、情報共有と意見交換を行い、教員の資質の向上を図っている。	学科会議において、学科教員間での情報共有と意見交換を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。	【課題】 ・次年度も継続的に実施する。
根拠資料名	大学 HP	大学 HP	大学 HP	大学 HP	大学 HP

学部・研究科名 応用生物科学部
 学部長・研究科委員長名 山本 祐司
 学科名・専攻名 醸造科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、基礎的基盤的知識の習得に関わる科目を初年次及び2年次に重点的に配当し、3年次では応用的な科目を、4年次ではそれらを統合した卒業論文を必修科目として配当することで、段階的、体系的に学べるように教育課程を編成・実施している。	1年次の東京農業大学入門においては、3つのポリシーを説明する時間を設けているほか、学習目的を明確にする工夫を講じている。また、教育効果をあげるために、インターンシップ型の実習を基礎と応用を十分に学び終えた3年次後期に配当している。	入学時に1年生全員に対し、進級・卒業要件を明示している。各教員がシラバス記載の成績評価基準に則り、適切に単位を認定している。学位授与については、学科教員会で審査を行い、全員一致をもって授与の可否を決定している。	卒業年次学生に対して、学生調査を実施することで、学生のディプロマ・ポリシーへの達成度を把握、評価している。また、定期的に学生のGPAを把握することで、GPAが低い学生について個別の指導を実施している。さらに、学生対象の授業評価アンケートを元に授業の改善を行っている。	カリキュラム委員会において時間割編成の適切性について検討を行っている。卒業年次学生に対して行う学生調査の回答結果から、教育課程の内容と方法がディプロマ・ポリシーを達成するために適切であったかを点検することで、教育課程の内容・方法の適切性の評価を行なっている。また、各学年のGPA分布の形状や平均・ばらつきから、教育課程の内容と方法が適切であるかを確認している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】学生の社会的及び職業的自立を図るために、3年次にインターンシップ型の実習科目を取り入れている。	【長所】企業や公的機関とのつながりを生かし、学習状況に応じて実産業について学ぶ機会を設けている。	【長所】適切に成績評価、単位認定を実施している。	【長所】学科のディプロマ・ポリシーが明解であるため、学生調査に基づいた学生の学修成果を把握しやすい。	【長所】全学生についてのGPAデータは、大学から毎年決まった時期に開示されることから、定期的な点検が実施できている。
	【特色】最終学年の卒業論文を必修科目として位置付けることで、3年次までの学習内容を統合して理解できるように配慮している。	【特色】専門性が高い学科のため、学生の目的意識が強く、関連企業の講演などにより、効果的に学生の修学意欲を活性化できている。	【特色】なし	【特色】同上	【特色】GPA分布は全ての学年で毎年算出している指数であるため、客観性があり、学科間や学年間での比較も行える。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】教育内容を段階的に設定しているものの、初年次学生の基礎学力に幅があるため、特に化学系科目において、理解不足のまま進級する学生がいる。	【問題点】必修科目では、授業履修学生数が150人を超えるため、学生全員に均質な学修意欲を持たせる工夫が難しい。	【問題点】なし	【問題点】1, 2, 3年次においては、GPA以外の学修成果の把握は充分ではない。	【問題点】現時点では、学生調査の結果を個々の教員の授業改善等に全面的には生かし切れていない。
	【課題】入学後の教育において基礎的項目についてフォローする体系的なサポートを行うことが望ましい。	【課題】上記問題点について、引き続き工夫する必要がある。	【課題】なし	【課題】高学年での学修の基盤として必要となる、低学年次の化学・生物系基礎科目の学習成果を正確に把握する方法を検討する必要がある。	【課題】学生調査の結果において、ポイントが低かった項目について、教員が改善する意識を持つよう周知する必要がある。また、GPA以外の客観的な学習成果の評価方法を模索する必要がある。
根拠資料名	授業科目配当表	授業科目配当表、シラバス	シラバス	大学からの開示データ（成績台帳など）	大学からの開示データ（成績台帳など）

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学科のアドミッションポリシーに基づいた内容で高校生に対する情報発信を行い、学生募集を行なった。大学の定めた入学者選抜制度の枠組みの中で、アドミッションポリシーに則った入学者の選別を行なうため、学科内に基準を設定し、それに基づいて公平・適切な選抜を行なった。いずれの型の入試においても、学科教員全員による厳正な審査により、合否の判定を行なった。	毎年年度始めに、本学科在籍者全員の学籍データ（入試制度・GPA記載のもの）を教員全員で共有し、入試制度および学生受け入れの適切性について点検・検証を行なって、次年度の入学者選抜の際に生かしている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 将来、酒類・食品製造・環境浄化、エネルギー開発等の微生物利用産業の発展に寄与する意欲を持つ学生を、色々な側面から広く集めることができている。	【長所】 カラーのはっきりした学科であるため、学生の傾向を把握しやすい。
	【特色】 醸造科学に興味・関心をもつ学生のみならず、実際の醸造業の後継者の受け入れに成功している。	【特色】 学生の志向の面からは、受け入れは概ね適切に行なわれていると考えられる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 入試制度が多岐に亘るため、本学科アドミッションポリシー（1）の項目について若干不適合の学生が一部発生している。	【問題点】 入試制度が多岐に亘るため、学科の方向性と学生の志向とのマッチングは概ね良いものの、学生間の学力のバラツキが若干大きめの傾向がある。
	【課題】 大学入学後のリメディアル教育等を充実させ、入学後の就学に支障をきたさないようにする必要がある。	【課題】 入試制度にかかわらず、本学科のカリキュラムおよびディプロマポリシーに対応できる学生を入学させる努力と工夫が必要である。
根拠資料名	募集要項、大学からの開示データ（入試結果報告、学籍データ）	大学からの開示データ（入試結果報告、学籍データ）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学の方針に則り、学科の教員組織の編成に関する方針を明示している。	現在の教員配置は、完全に方針を反映した形となっている。	本学科は研究室ごとに明確な醸造の対応業界を持ち、一研究室3名の教員構成（年齢・職階的なバランスも考慮）となるよう、随時適切な募集・採用・昇任を行なっている。この方針および大学の人事方針に則り、本年度は新規採用教員1名の採用を行った。	新型コロナウイルス対策が落ち着き、醸造食品部会での活動はハイブリッドで開催できているが、FDに関する説明会への参加などについては改善の余地がある。	引き続き6研究室体制で活動を行なっている。科内教授会において、学科の教員組織の適切性について議論している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 編成方針と齟齬がなく、学界・業界の双方に対応可能な教員配置となっている。	【長所】 教員組織の編成方針が明解なため、募集の際の条件も明確である。	【長所】 学科の方向性が明解であるため、資質の向上を図る機会を設けやすい。	【長所】 なし
	【特色】 教員組織の編成方針が明瞭である。	【特色】 国内でも数少ない発酵・醸造専門の研究・教育機関として機能することが可能な教員配置となっている。	【特色】 なし	【特色】 伝統／先端、教育／研究、産／学のバランスのとれた学科活動に向けての研鑽を行なっている。	【特色】 醸造科学分野において、より効果的な教育・研究を実践できる教員組織となることが予想される。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 学科として目指すものが多く、ややもすると教員のオーバーワークに繋がってしまう。	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 一部の教員に負担が集中しないように、教員配置に沿って、全員が業務を適切に分担する。	【課題】 なし
根拠資料名	大学 HP	学科 HP	学科 HP	醸造食品部会資料、学科担当表	学科 HP、教授会議事録

2025（令和7）年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

学部・研究科名 応用生物科学部

学部長・研究科委員長名 山本 祐司

学科名・専攻名 食品安全健康学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	昨年度より新カリキュラムが開講したことにより、例年以上に学科内の主要な開講科目について、体系的な編成がなされているのかを見直す機会が増加した。その上でカリキュラムポリシーに基づいた編成であることを再確認した。	対話型講義の実践状況や各講義担当者から問題点などを収集することにより、学科内で生じている内容を周知した。	各科目評価担当責任者からの履修状況も良好であり、特段単位認定において問題となる事例は見受けられなかった。学位認定に関してもほぼ予定通りの卒業判定となっており順調に行われている。	多くの学科内主要科目において、日頃の講義よりディプロマ・ポリシーに則り、学生への学習成果を高めるための方策に取り組んだ。	各科目評価担当責任者からの報告事項として、教育課程及びその内容、方法の適切性について提示されている。何か問題が生じている場合は、担当教員のみでなく学課教員に周知するような時間を学科教員の会議において設けている。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・基礎科目～専門科目が各分野で体系的に設置しており、学年毎に各領域の専門性が増すように設置されている。	【長所】 ・各講義担当者の教育方針に基づく自主的な講義を遂行させ、教員の個性や専門性も含む特色ある講義が展開されている。	【長所】 ・各講義担当者の報告から、いずれの開講科目も履修は概ね8～9割台に収まっており、良好な単位取得が促されていることが窺える。	【長所】 ・シラバスに即して当初の予定通り講義が開講され、成績評価においては当初のディプロマ・ポリシーに見合う単位取得がなされている。	【長所】 ・例年行われているシラバスの第三者チェックにより、講義内容についてもできるだけ踏み込んだ確認を教員間で実施している。
	【特色】 ・食の安全性・機能性を学ぶ上で必須となる化学・生物を軸とした基礎科目を土台とし、その上に各領域の専門科目が設置されている。	【特色】 ・講義の中に時事問題や関連する社会情勢などを織り交ぜながら、講義の内容が単に座学の知識というだけでなく、社会に反映している一面を認識できるよう心がける講義も散見される。 ・毎回の授業の終わりに復習テストを行い、学生の学習の活性化につなげる工夫も見られる。	【特色】 ・講義として、配当学年の現役受講者はもちろんのこと、再履修者にも手厚く声がけするとともに、講義への出席状況、試験成績などを学課教員間で共有し、取りこぼしがないように努めている。	【特色】 ・学年が進むにつれてディプロマ・ポリシーに掲げられている食品の安全性、衛生管理、機能性評価などの専門的知識の習得に繋がるように講義が配当されている。	【特色】 ・教育課程及びその内容、方法の適切性については、定期的に点検するため、繋がりのある科目担当教員同士で連携を図るよう組織内で努めている。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・依然として、化学の修学が充分とは言えない学生が多い。・座学に加え、演習・実験・現場実習を配置し、繋がりなる専門知識を養うことを重視している。科目間における連携が十分か否か検証する機会が少ない。	【問題点】 ・対面型講義としての開講は難しい講義の座学においても内容ごとの振り返りや復習テストを取り入れるなど、学習効果を高めるための創意工夫が必要であると考えられた。	【問題点】 ・東京農業大学 Web 認証システムでは、依然として学外や教室外から出席登録する学生が一定数は見受けられ、本学のシステムへの問題提起も必要であると考えられた。	【問題点】 ・実際の成績評価や学生からの授業評価アンケートにおいて、学習成果が十分であったのかを確認していく必要がある。	【問題点】 ・実際には、年度内一定期間において教育課程及びその内容、方法の適切性について点検・評価はなされている。
	【課題】 ・例年に引き続き、関連科目や実験実習を通して、化学の基礎から卒業研究までの連携を検討し、学修効果を高める必要がある。 ・専門領域として、①食品・原料中の成分、②食品の製造・衛生管理、③食品が体に与える影響に分けて体系立てている。今後はその専門領域間の連携も見直す必要があると考えられた。	【課題】 ・講義における創意工夫や取り組みにおいては、担当教員間における温度差もある。今後は組織内でより周知して日頃より問題提起していく必要があると考えられた。	【課題】 ・講義中の小テストや別媒体を用いた回答項目などを設定するなど、各教員が創意工夫することにより、成績評価、単位認定並びに学位授与の適切に遂行させる必要があると考えられた。	【課題】 ・教員によって対応が異なるので、各教員による学習成果を公開して問題点を明確にする必要があると考えられた。	【課題】 ・例年に引き続き、関連科目や実験実習を通して、化学の基礎から卒業研究までの連携を検討し、学修効果を高める必要がある。 ・専門領域として、①食品・原料中の成分、②食品の製造・衛生管理、③食品が体に与える影響に分けて体系立てている。今後はその専門領域間の連携も見直す必要があると考えられた。
根拠資料名		資料 1:20260218 包括的 point check 評価報告用業績調査_教員個人集計	資料 1:20260218 包括的 point check 評価報告用業績調査_教員個人集計	資料 1:20260218 包括的 point check 評価報告用業績調査_教員個人集計	

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	入学センターからの情報は、学科の全教員に周知して、学科においてより優れた学生確保を目指して取り組み全教員の当事者意識を高めるよう入試関連業務を学科内に見える化した。それにより、公平、且つ、適正に学科の運営が遂行された。	入学後の1年次学生について、入試制度とGPAの関連を明らかにするべく内部調査を行なった。その結果、特に成績不振な学生については、入試制度まで遡り、年内入試の合格者については入学後までの問題点を明確にするよう努めた。これにより次年度以降の各入試制度利用学生の募集配分の根拠を明確にするよう取り組んだ。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・入試についての問題意識の共有を行い、若手教員も判断の場に必ず同席することにより、学科構想並びに将来像に対する自身の関わりがより密接になるように遂行した。	【長所】 ・各種入試制度利用による入学生と1年次のGPAを照合し、問題点の把握に努めた。さらに、成績不振者に対する面接を重点的に行い、次学年からの改善を促した。
	【特色】 ・前年度に引き続き、オープンキャンパス、キャンパスツアーなどの内容に配慮しながら、これまで以上にアドミッション・ポリシーを意識した学生募集に取り組んだ。その結果、前年度と比較して受験者数は大幅に増加した。一方で、偏差値については前年度と同程度にとどまり、上昇には至らなかったため、今後も引き続き動向を注視する必要がある。	【特色】 ・成績不振者に対する面接内容は、学年担当教員のみならず、学科内教員に周知することにより、早期改善に繋がるように心がけ、学科運営を遂行している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・前年度に比べて、入学センターから示された高校訪問や模擬講義を遂行する機会が増加した。一方で、学科としての学生受け入れ姿勢をより明確に示し、個々の教員が自主的に当事者意識を持って学生募集活動に取り組むことも、引き続き必要であると考えられた。	【問題点】 ・後期B日程や共通試験2科目などの受験制度利用学生においては、学科のポリシーや方針に対する理解が低く、進路選択におけるミスマッチが生じている可能性が考えられた。
	【課題】 ・今後は人口減少に伴い、受験者数が減少する傾向が予想される。こうした状況を踏まえ、学科としての学生の受け入れ方針を含むポリシーの内容をよりよく改訂していく必要があると考えられた。	【課題】 ・引き続き、より適した学生確保に繋がるように、学生受け入れに関するアドミッション・ポリシーの見直しや方針の改善を促していく必要があると考えられた。
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	今年度は、新規採用・教授（任期制）を学科内全教員で協議し、学科の強みをより反映出来る人材として採用に至った。定期的に学科運営を通して今後の組織編成を示している。	①項と同様に、将来構想を明確にすることを目的として、組織の問題点を明らかにし、共有化することをつとめている	今年度は、新規採用・教授（任期制）を学科内全教員で協議し、学科の強みをより反映出来る人材として採用に至った。定期的に学科運営を通して今後の組織編成を示している。	教員の資質の向上を図るため、学会活動の件数や外部委託研究の有無などを毎年確認している。また、学生からの授業評価アンケートについて、学生からの評価を真摯に受け止め、個々の向上が、多面的に学科組織の改善に繋がるように心がけ対応した。	教員組織の適切性を図るため、④項と同様に、学会活動や外部委託研究の有無、学生からの授業評価アンケートの確認や改善計画を促している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科教員は適切に配置され、これまでの方針に基づいた運営がなされている。	【長所】 ・①項と同様に、運営がなされている。	【長所】 ・今年度は、当初の枠取り申請からの予定通り、1名の教授（任期制）が採用された。	【長所】 ・今年度は、若手教員の依命留学も順調に進み、教員各自のキャリア形成を高めるためのサポートが学科としても高まった。	【長所】 ・学科全体並びに各研究室における取り組みとして、適切性について点検するよう進めている。
	【特色】 ・学科開設から11年が経過し、学科教員組織の入れ替え、方針の見直しを要する時期を迎えている。	【特色】 ・①項と同様	【特色】 ・これまでの学科内採用計画に基づき、採用、昇格、専任化は滞りなく進んでいる。	【特色】 ・学科組織内は風通しよく、若手教員のサポートに努めている。	【特色】 ・学科内の各研究室や各教員の専門は多岐にわたり、バラエティに富んでいる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・今年度より連続して学科教員が退職を迎える。今後の学科方針の見直しや人事計画が必要となる。	【問題点】 ・①項と同様	【問題点】 ・①項と同様	【問題点】 ・今年度より連続して学科教員が退職を迎える。今後の学科方針の見直しや人事計画が必要となる。	【問題点】 ・専門分野が別れており、教員の資質として、その適切性を的確に評価できているかどうかは明確ではない。
	【課題】 ・学科内各研究室の運営や学科全体の方針を見据えた中長期的な採用計画を策定する必要がある。	【課題】 ・①項と同様	【課題】 ・①項と同様	【課題】 ・学科における中長期的な採用計画の見直しが必要であると考えられた。	【課題】 ・教員としての的確に組織に属しているのかを見極めるため、発表論文数、外部資金獲得なども考慮して総合的に評価する必要があると考えられた。
根拠資料名				資料2:20260218 包括的点検評価報告用業績調査_研究室毎集計	資料2:20260218 包括的点検評価報告用業績調査_研究室毎集計

学部・研究科名 応用生物科学部
 学部長・研究科委員長名 山本 祐司
 学科名・専攻名 栄養科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づいた授業科目を設置している。カリキュラム編成時には、学科教員会の下にワーキンググループを作成し、カリキュラム・ポリシーに沿った授業体系の編成を目指している。	栄養科学特論（3年次）などの科目において、地域・産業界・官庁等で活躍している社会人による講演を行い、学生の学習意欲の動機付けにしている。	大学の評価基準に則り、単位認定を行っている。	栄養科学科のディプロマ・ポリシーを東京農業大学入門（1年次）で説明している。また、各授業においても再度確認を行い、学生への意識付けを行っている。また、4年次に総合演習（一）（二）を開講し、4年間の総合学習を行っている。	授業評価アンケートを行い、授業内容の妥当性の把握と次年度に向けた改善を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・本学科が目指す管理栄養士像を教員間で共有し、各教員が担当科目の役割を意識して教育することができる。	【長所】 管理栄養士の活躍状況を学修することで、自らのキャリアプランを検討しやすくなり、学習意欲の向上につながる。	【長所】 評価の基準点が明確であり、学生も目標を持って取り組むことが出来る。	【長所】 管理栄養士国家試験の合格に必須である学修意欲を高水準で維持できる。	【長所】 資格教育を行いつつ、学生のニーズを取り入れた授業を実施することを教員が意識できる。
	【特色】 ・厚生労働省が示す科目体系に、本学科が目指す農学、医学などの特色を加えた授業体系を編成している。	【特色】 病院や各種施設に加えて、様々な分野で活躍している管理栄養士の講演を行っている。	【特色】 国家試験受験資格を得るため、必要な単位数は多いものの、合格基準を明確にすることで着実にこなす意欲につながる。	【特色】 卒業時に管理栄養士国家試験を受験するため、教員および学生にとって学習成果が明確である。	【特色】 管理栄養士養成課程であるため、科目間のつながりが深く、一つの教科の改善が他教科にも影響する。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッション・ポリシーに基づき、各入学者選抜試験を実施しており、合否判定会議は学科教員会で決定している。	入学定員に対する入学者数で判断している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・アドミッション・ポリシーに基づいて入学者選抜を適切に行うことは、卒業時に国家試験に合格し、各分野で活躍できる管理栄養士の輩出に直結する。	【長所】 ・適正な入学定員数を維持できる。
	【特色】 ・年内入試では、志望動機や将来の希望、本学科への理解度、学習意欲などを確認する質問に加えて、生物・化学・一般常識に関する質問も行っている。これらの質問を通して、入学後に本学科の講義に十分ついてこられるかどうかを判断している。	【特色】 ・適正な入学定員数を維持することにより、適切な授業運営ができる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・入試制度が多岐にわたるため、本学科のアドミッション・ポリシーに必ずしも適合しない学生が若干名いる。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・入試制度に関わらず、管理栄養士国家試験合格を全員が目指すよう入学早期から指導する必要がある。 ・大学入学後のリメディアル教育等を充実させ、入学後の就学に支障をきたさないようにする必要がある。	【課題】 ・なし
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	栄養科学科の教育研究目標に対して、各専門分野の教育研究に必要な専門性の高い教員の採用とその編成について方針を明定している。	栄養科学科の教育研究目標を達成するための専門性の高い教員組織の編成を行っている。	教員の募集、採用にあたっては、教育研究目標を達成するための専門性の高い教員募集、採用を行っている。昇任にあたっては、大学基準に則り、適切に行っている。	FDの組織的な実施を行っている。	適宜、行っている。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・管理栄養士養成に必要な科目は多岐にわたるが、分野ごとに専門性を明示することで教育・研究の質向上にもつながっている。	【長所】 ・研究室で教員同士の成長を促すことはもちろん、専門の異なる研究室間でも資格養成という教育目標を共有して互いに教育・研究の質向上に影響を与えている。	【長所】 ・就業年数ではなく研究業績や授業の担当状況などが昇格に影響することは、教員のモチベーションの向上につながる。	【長所】 ・組織的にFD活動を行うことで、本学科が目指す管理栄養士像を共有しながら改善に取り組むことが出来る。	【長所】 ・管理栄養士養成に必要な教育を再確認できる。
	【特色】 ・人間栄養学分野と食品栄養学分野に大きく分類している。	【特色】 ・研究室は専門分野に分かれているが、1年次の導入科目や4年次の総合科目は全研究室で受け持っている。	【特色】 ・採用にあたっては、特に管理栄養士養成に対する考えや意欲、科学的根拠を発信する研究力を重視している。	【特色】 ・教育の成果が管理栄養士国家試験の合格率として明確に現れる。	【特色】 ・質の高い管理栄養士養成ができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・学生の学力に幅があるため、国家試験対策が教員のオーバーワークに繋がってしまう。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・一部の教員に負担が集中しないように、研究室担当教員も学生の試験対策指導にあたり、全員が業務を適切に分担する。	【課題】 ・なし
根拠資料名					

学部・研究科名 応用生物化学部
 学部長・研究科委員長名 山本 祐司
 学科名・専攻名 農芸化学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学の理念に基づいた教育の推進	学科の理念に基づいた教育の推進	卒業論文の充実化
実行サイクル	4 年サイクル（令和5年～令和8年）	4 年サイクル（令和5年～令和8年）	4 年サイクル（令和5年～令和8年）
実施 スケジュール	東京農業大学入門において実施する。	東京農業大学入門、共通演習、実験実習において実施する。	研究室演習（一）、（二）、卒業論文演習（一）、（二）、卒業論文において実施する。
目標達成を測 定する指標	該当科目の成績、出席率、授業評価により判断する。	該当科目の成績、出席率、授業評価により判断する。	該当科目の成績、出席率、授業評価により判断する。さらに、各研究室の代表者による学科卒論代表者発表会を開催する。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学年担任を中心に講義プログラムを組み、適時、学科教員全員で担当した。出席数やレポートの評価については、教員間で情報を共有した。	学年担任を中心に講義プログラムを組み、適時、学科教員全員で担当した。出席数やレポートの評価については、教員間で情報を共有した。	研究室を中心に当該科目を実施するとともに、研究室合同での代表者発表会を開催し、評価責任者を中心に現状を把握した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	大学 HP（シラバス）、大学からのデータ（成績データ）	大学 HP（シラバス）、大学からのデータ（成績データ）	大学 HP（シラバス等）、大学からのデータ（成績データ）

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究業績の発信		
実行サイクル	____4____年サイクル（令和5年～令和8年）	____年サイクル（令和 ____年～ ____年）	____年サイクル（令和 ____年～ ____年）
実施 スケジュール	定期的に自己点検システムの更新を教員へ促す。併せて、学科 HP 内に学科ニュースリリースを設置して、研究に関するトピックスを発信する。		
目標達成を測定する指標	学科 HP で内容を確認する。		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	自己点検システムや HP を適宜、更新すると共に、特徴的な成果は大学 HP への掲載を依頼した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	大学 HP		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	なし		
実行サイクル	_____年サイクル（令和 _____年～ _____年）	_____年サイクル（令和 _____年～ _____年）	_____年サイクル（令和 _____年～ _____年）
実施 スケジュール			
目標達成を測 定する指標			
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・なし		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・なし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・なし	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

学部・研究科 応用生物科学部
 学部長・研究科委員長名 山本 祐司
 学科名・専攻名 醸造科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目標	醸造・食品メーカーと提携して、インターンシップ型の学外実習を実施することにより、醸造科学の理論と実践を総合的に理解させる。	卒業研究を通して、発酵・醸造理論の理解を深めると共に、本分野における新たな課題の発見や解決法の模索、既存技術の改良や新技術の開発に繋がる発想やスキルを修得させる。	大学院への進学者数増加
実行サイクル	<u>1</u> 年サイクル（令和7年）	<u>1</u> 年サイクル（令和7年～令和8年）	<u>4</u> 年サイクル（令和7年～令和11年）
実施スケジュール	3年次生に「醸造科学特別実習」の積極的な履修を促し、学科とメーカー間で密な連携をとることにより、令和7年12月の仕込み時期に合わせた二週間のインターンシップ型学外実習を実施する。	3年次より研究室に所属させ、卒業研究開始前に事前のトレーニングおよび研究室生活へ適応期間を設ける。4年次に一年間（常時担当教員のサポートの下で）個別の研究テーマを主体的に遂行させることを通じて、醸造科学の知識・理論の運用や解析方法を実践的・統合的に修得させる。研究結果を四年次の年度末に卒業論文として纏めさせる。	1年次の東京農業大学入門や共通演習等を通して、本学科の分野における研究の魅力や大学院修了者の活躍などを学生に紹介する。2年次・3年次においては、各教員の担当科目を通じて研究の魅力を印象づける。4年次には卒業研究の過程で進学する動機付けを行なうように指導する。
目標達成を測定する指標	以下の二つの指標を併せて到達度を判定する。 ・実習中は毎日日誌をつけることを課題とし、実習終了後に学科に提出させる。日誌の記載内容より学科教員が評価を行なう。 ・各企業の実習担当者より、実習終了時に実習態度・到達度合い等について評価をしていただく（評価報告書を学科に送付していただく）。	学生が所属する研究室教員との研究討論や発表会での内容から、研究室教員がスキルの修得状況を学生ごとに評価する。併せて卒業論文の内容を以って、総合的に到達度を判定する。	各年度の大学院進学者数により測定する。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	令和7年12月8日（月）から12月19日（金）の二週間実施した。153名の学生が、2～4名のグループに分かれ、合計75の企業等において実習を行なった。	4年生173名が所属研究室において、研究室教員の指導の下、卒業論文作成のための研究を行ない、研究成果の論文化を行なった。現4年次生は、3年次から研究室に所属し、トレーニングを行った。	共通演習や各教員の授業・卒業研究指導を通して醸造科学分野の研究の魅力を学生に伝えた。2025年度前期課程合格者は定員を超える38名だった。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 多くの本学科卒業生経営の企業に協力いただいております、学科と実習先の連携がスムーズに行なっている。	【長所】 最終学年において、教員と距離の近いコミュニケーションの中で、直接スキル修得ができる。	【長所】 学生に進路についての選択肢の多様性を多くの機会に直接伝えられる。
	【特色】 このような実習を成し得ているのは、全国的に見ても本学醸造科学科だけである。実学主義を体験できる。	【特色】 4年生全員が、研究室での実験や発表会を通して主体的に学びの場に参加する。	【特色】 学科教員が多くの事例を紹介できる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 前学期が就職活動期と重なる。	【問題点】 入学時の大学院進学希望率があまり高くない。
	【課題】 なし	【課題】 学生と研究室教員のコミュニケーションをよくし、就職活動中も学生の卒業研究のモチベーションを損なわないように留意する。	【課題】 大学院進学を視野に入れた大学受験生を集める工夫が必要である。
根拠資料名	実習先一覧	学生名簿	大学院入試資料

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学科共通機器の効果的運営	発酵・醸造分野における研究発表、および外部資金の申請を積極的に行なう。	関連する公的機関や企業等との連携を推進する。
実行サイクル	___4___年サイクル（令和4年～令和8年）	___1___年サイクル（令和7年）	___1___年サイクル（令和7年）
実施スケジュール	策定した共通機器使用ルールに則り、各研究室で積極的に共通機器を利用する。機器操作について講習会などを実施する。	前年度に引き続き、各種関連学会・関連学術雑誌における発表を積極的に行なう。科研費を始めとする外部資金の公募時に積極的に応募する。	年間を通して、公的機関や関連業界の企業との共同研究等を積極的に行なう。
目標達成を測定する指標	既存の共通機器についてより多くの研究室が利用することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> 学会発表は、学科で年間20件以上を目標とする。 外部資金申請は、学科で年間6件以上を目標とする。 原著論文発表数は学科で年間12件以上を目標とする。 	学科全体として、年間10件以上の公的機関或いは企業と連携することを目標とする。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	ルールを策定し、各研究室にて積極的に利用した。学科内の4件だけでなく、学科外で4件使用し、共同研究先との研究にも効果的に使用出来た。	学会発表は、学科全体（6研究室）で43件。外部資金申請件数は、学科全体で25件。論文発表数は、学科全体で8件。今年度発表論文のうち、IFの高いものは9.8であった。	今年度の関連する公的機関や企業との共同研究数は、学科全体で76件であった。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】最新の機器を利用することで、新たな発見につながることを期待される。	【長所】全項目において目標数値を達成し、インパクトファクターの高い国際誌にも掲載されていると考えられる。	【長所】各研究室が、それぞれの担当領域に応じた適切な連携を行なっている。
	【特色】これまでに明らかにされていない醸造物中の新規な成分の発見につながる	【特色】発酵・醸造分野においてレベルの高い研究を実施できている。	【特色】学科の特色を反映した明解な連携が多いことが特色である。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】各教員の研究時間の確保が難しく、全ての研究室にて運用できていない。	【問題点】教員の研究時間の確保が難しい。	【問題点】なし
	【課題】勉強会などを行っていくことで、各研究室でも運用できるようになることが望ましい。	【課題】引き続き、研究成果の発表および外部資金の獲得を積極的に行なう。	【課題】なし
根拠資料名	各研究室からの報告	各研究室からの報告	各研究室からの報告

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	新年度初めに新入生に対するアンケートを実施し、本学科受験生の傾向や動向についての把握に努める。	研究室間交流と研究成果の積極的配信	教務以外の場面においても、教員が積極的に学科学生との親睦に努める。
実行サイクル	___1___年サイクル（令和7年）	___1___年サイクル（令和7年）	___1___年サイクル（令和7年）
実施スケジュール	新年度の早い段階に、東京農業大学入門において新1年生全員を対象にアンケートを実施する。アンケート結果を集計し、本学科を受験する受験生の傾向や本学科を受験するに至った経緯、より発信が望ましい情報などについて学科として検討を行なう。	研究室間での研究交流を活発に行い、学会発表・論文投稿などを通じて学科プレゼンスと研究力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・学科卒業生組織である醸友会と連携し、学科教員主催で在学生対象に発酵食品の配布や卒業生との交流イベントを開催する。 ・8月末頃より、教員が手分けして醸造科学科統一本部の活動をサポートし、収穫祭の成功を支援する。
目標達成を測定する指標	アンケート結果を整理してデータ化し、学科教員全員で共有する。それを、オープンキャンパスや学科HP・大学案内等での情報発信を有効に行なう上での基礎情報として利用すること。	研究室間での協力回数や成果物等の数で評価する。	上記各種イベントを実施すること。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	アンケートを実施できなかった。	2023年度より1研究室3教員を充足し、18人体制での学科運用となっている。それに伴い、研究室間交流についても活発になり、学科内や外部研究室を含めた共同研究成果として、5件の学会発表を行った。	醸造・環境関連企業に関するセミナーならびに試飲会を、学科醸友会と連携したイベントとして開催し、教員との親睦を深めた。また、統一本部学生のサポートも行い、収穫祭と体育祭に参加した。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・お互いの専門を補い合うことができている。	【長所】 ・統一本部学生との連携がとれている。
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・学科独自の卒業生組織である醸友会と連携している。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・次年度担当者への確認。	【問題点】 ・教員の研究時間の確保が難しい。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・アンケート内容の整備。	【課題】 ・教員の研究時間の確保。	【課題】 ・なし
根拠資料名	特になし	各研究室からの報告	醸友会HP、収穫祭案内冊子

学部・研究科名 応用生物科学部
 学部長・研究科委員長名 山本 祐司
 学科名・専攻名 食品安全健康学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	講義の学習成果を高める	英語能力を高める	
実行サイクル	1 年サイクル（令和7年）	1 年サイクル（令和7年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	1. 単位認定数、論文発表数を増やす。（1年間） 2. 成績不振者に対する面接を随時実施していく。（1年間）	1. 学内 TOEIC 受験の働きかけを積極的に行う。（1年間） 2. 英語（外国語）教員と協力して論文購読力を高めるための講義を開講する。（半期）	
目標達成を測 定する指標	1. 単位認定数、論文発表数を確認する。 2. 成績不振者に対する面接数を確認する。	1. 学内 TOEIC の受験数を確認する。 2. 学科開講科目：科学英語の履修学生数を確認する。	
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学生の履修状況、出席状況、単位取得状況を確認し、取りこぼしのないように努めた。個々の講義において、より一層の質の高い講義を目指して遂行した。	学科のディプロマ・ポリシーの達成に向けて、食のグローバル化に向けた教育方針を具現化した。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・各講義における履修状況、単位取得率において概ね良好であった。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・学科内教員で連携し、取りこぼしのないように取り組んだ。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学科のディプロマ・ポリシー達成を明確にするため、講義の成果が社会実装に繋がるような達成感を学生に示していく必要がある。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・各講義内容の質を高めるため、第三者による確認システム構築が必要と考えられた。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	食の流通のグローバル化により、市場には新たな食材や加工食品があふれ、人々は豊かな食文化を楽しむ一方で、在来・外来の食材が食の安全が脅かされる危険もあることを知る必要が高まっている。こうした「食の安全・安心」をはじめ「食の機能と健康」を科学的に解明する研究拠点となり得るよう食品安全健康学科の教育・研究内容について、より広く社会に発信していく。		
実行サイクル	_____ 1 _____年サイクル（令和7年）	_____年サイクル（令和 _____年～ _____年）	_____年サイクル（令和 _____年～ _____年）
実施スケジュール	年度内半期ごとに、学生の履修状況、出席状況、単位取得状況を確認し、取りこぼしのないように努めていく。個々の講義をモニターして、より一層の質の高い講義を目指していく。		
目標達成を測定する指標	前年度を上回る学生による授業評価、学生の履修状況、出席状況、単位取得状況の増減を指標とする。		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	前年度と同等の授業評価、学生の履修状況、出席状況、単位取得状況が確認された。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし 【特色】 ・なし	【長所】 ・ 【特色】 ・	【長所】 ・ 【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・本目標を継続していく必要がある。 【課題】 ・継続して経過を見極めていく必要があると考えられた。	【問題点】 ・ 【課題】 ・	【問題点】 ・ 【課題】 ・
根拠資料名			

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	今後の食品企業では、安全・安心と、機能性食品などの新たな市場へのそれぞれに対応できるバランスのとれた人材が求められている。また行政にとって、食品市場の環境が変化していく中で食の安全・安心を守るための取り組みと、より多様化する機能性食品市場を規制する取り組みが必要となっており、同様にバランスがとれた人材が求められている。このような背景のもと、本学科のディプロマポリシーにある「食品安全健康学科は、食の安全と健康機能の専門領域における確かな知識と技術、研究能力を修得し、食の安全と健康機能上の問題解決力を身に付けている人材」であることを広く食品企業等関連業界に周知させていく。	受験者数の増加を図る。	
実行サイクル	1 年サイクル（令和7年）	1 年サイクル（令和7年）	1 年サイクル（令和 年～ 年）
実施スケジュール	1. 学会の懇親会・交流会に積極的に参加し、企業関係者への学科 PR を行う。	1. 食品安全健康学科学生に対して、講義等を通じて、研究の意義、研究職の魅力をアピールする。 2. 食品安全健康学科学生に対して、毎年、大学院での研究、研究職の魅力などについて、学期最初に行われるガイダンスなどを通じて PR する。	
目標達成を測定する指標	1. 参加学会懇親会数を確認する。 2. 問い合わせを受けた企業数を確認する。 <u>企業懇談会や独自の接点からの求人对応数</u> <u>学生からの注目度が高い企業への就職率</u> <u>行政官、食品衛生監視員など官公庁への就職数</u>	1. 令和7年度の食品安全健康学専攻受験者数を確認する。 2. 専攻説明会の回数、参加人数を確認する。	
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	例年と同様の参加学会懇親会数、問い合わせを受けた企業数を確認した。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・引き続き、一定数の参加学会懇親会数、問い合わせを受けた企業数が維持されている。 【特色】 ・なし	【長所】 ・ 【特色】 ・	【長所】 ・ 【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・本目標を継続していく必要がある。 【課題】 ・企業懇談会や独自の接点からの求人对応数、学生からの注目度が高い企業への就職率、行政官・食品衛生監視員など官公庁への就職数を増やし、学科の特色を内外に示していく必要がある。	【問題点】 ・ 【課題】 ・	【問題点】 ・ 【課題】 ・
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	管理栄養士として必須の栄養科学・食品科学の分野における研究活動を推進し、その研究成果を種々の手段により、国内外の社会に発信する。また、様々な研究助成からの外部資金の取得を試み、研究活動の推進に繋げる。
実行サイクル	___1___年サイクル（令和7年）
実施スケジュール	(1) 栄養・食品科学分野に関連する国内外の学会へ参加する。 (2) 栄養・食品科学分野に関連する和文誌や国際誌へ投稿する。 (3) 外部資金獲得のために、科研費、財団の研究助成、学内プロジェクトなどに申請する。
目標達成を測定する指標	達成度を判断するための指標としては、教員の学会発表演題数、掲載論文数、外部資金への申請数などを確認する。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	(1) 多くの教員が栄養・食品科学分野に関連する国内外の学会へ参加し、38 演題を発表した。 (2) 多くの教員が栄養・食品科学分野に関連する和文誌や国際誌へ投稿し、和文 10 報、英文 9 報、計 19 報発表した。 (3) 個人もしくはグループで外部資金獲得のために、科研費、財団の研究助成、学内プロジェクトなどに 18 件の申請を行った。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・教員が卒業研究指導を通じて研究を行い、研究成果を公表していくことは、教員及び学生双方にとって意欲の向上につながる。 【特色】 ・科学的根拠に基づいた栄養管理・栄養指導が行える管理栄養士の輩出に貢献することができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし
根拠資料名	令和7年度活動報告書

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	農学と医学の領域を融合させた高度な専門的知識および技術を有し、社会に貢献できる管理栄養士を育て、病院や介護施設、食品企業、行政機関などに輩出する。
実行サイクル	_1_ 年サイクル（令和7年）
実施スケジュール	(1) 学生への意識付けのために地域・産業界・官庁等で活躍している社会人による講演を3年次の栄養科学特論等にて実施する。 (2) 地域・産業界・官庁等との連携をとるために、たとえば地域での健康推進事業等を積極的に推進する。
目標達成を測定する指標	(1) 社会人による講演のレポート課題を通して学生の認識を確認する。 (2) 地域・産業界・官庁等との連携状況を確認する。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	(1) 3年生：栄養科学特論 ・「アスリートをサポートする管理栄養士とは～実 業団管理栄養士だった私のキャリアより～」 元・日本郵政グループ女子陸上部 管理栄養士（現・国立成育医療研究センター 社会医学研究 部 研究補助員 本庄梨紗先生） ・「大学／大学院の学びと現在」（武庫川女子大学食物栄養科学部 大滝直人先生） ・「病院管理栄養士の仕事について～1年目の仕事から逆算する大学での過ごし方～」（上尾中央総合病院 栄養科 鳥越みなみ先生） ・「栄養士のキャリアに“起業”という選択肢を ～カゴメ、リクルートを経て味噌スタートアップを起業した話～」（株式会社 MISOVATION 斉藤悠斗先生） ・「乳業メーカーの特徴と雪印メグミルクのものづくり」（雪印メグミルク ミルクサイエンス研究所伊藤祐輔先生） ・「自分の強みを活かした管理栄養士としての働き方 ～フリーランスの仕事のリアル～」（フリーランス管理栄養士加藤（棚橋）伸子先生） (2) 地域・産業界・官庁等との連携状況 資料のとおり 19 件の連携を行った。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・各領域の管理栄養士の活躍状況を聴講することは、卒業後の資格の活用法をイメージしやすくなり、学修意欲の向上につながる。これに加えて、教員が産学連携や地域の健康推進事業などに関わることで、社会における管理栄養士の役割を確認し、学生教育に還元することができる。
	【特色】 ・管理栄養士は様々な分野で活躍しているが、学生自らが様々な分野で活躍している管理栄養士の具体的な情報を得ることは難しい。そのため、栄養科学特論や特別講義などで様々な管理栄養士像を学修することは学修意欲の向上につながり、学生自らの将来の方向性を考える情報源にもなる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし
根拠資料名	令和7年度活動報告書